

10年目を迎えた長崎大学短期留学プログラム

松村 真樹

1. 長崎大学短期留学プログラムの発足と展開

長崎大学短期留学プログラム（Nagasaki University International Student Program：N I S P）は、長崎大学と外国の大学との学生交流協定に基づき、外国の大学に在籍する学部学生を受け入れ、主として英語による授業を実施する1年間の特別留学プログラムである。N I S Pは、2004年10月に発足し、初年度の受け入れ学生14名を迎え入れた。それ以来、毎年10月に20名程度の留学生を受け入れ、2013年10月には第10期生23名が来日した。こうして、N I S Pは発足以来10年を経過したことになるが、その間、本プログラムで学んだ留学生は200名を超えた。

N I S Pは、1990年代から他の国立大学において始まった類似の短期交換留学プログラムに追随する形で開始された。その意味で、N I S Pには、それらのプログラムとの共通点が多く見られる。例えば、学生交流協定に基づく授業料不徴収、単位互換が可能であること、日本語学習歴を前提とせず英語による授業を開講すること、そして1年間のプログラムであることなどである。

一方、大学間における短期留学プログラムの相違点は、そのカリキュラム内容と受け入れ学生の出身国によって反映される傾向にある。短期留学プログラムのカリキュラム内容は、大きく分けて2つのタイプが考えられる。すなわち、内容の多様性に重きを置くカリキュラムと、ある分野に特化したカリキュラムである。前者は複数の異なる送り出し大学からの留学生の多様な学問的関心に応えることを目的にしており、一般に「網羅型」と呼ばれている。後者は内容のある特定分野に特化させ、その分野の留学生だけを受け入れることを目的にした「特化型」短期留学プログラムである。基本的にN I S Pは、総合大学としての長崎大学がこれまで学術交流を進めてきた世界中の大学から幅広く学生を受け入れ、国際交流の場として推進するという

意味において、カリキュラムの多様性を念頭においた網羅型として発足した。そのため、医学部、歯学部、薬学部、工学部、環境科学部、教育学部、水産学部、経済学部のすべてが、それぞれいくつかの授業科目を提供することによってカリキュラムを構成している。同時に、より多くの留学生に日本についての理解を深めてもらうため、日本語と茶道・華道のような日本の言語や文化に関係した授業科目を留学生センターが提供してきた。

参加者の出身国の多様性という点については、NISPは、交流相手校の地理的分布に大きく影響されている。すなわち、発足以来、中国と韓国からの留学生がNISP参加者の大半を占めており、そこに、タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシアの東南アジア諸国からそれぞれ年間1~2名が加わる形をとってきた。その後のプログラムの展開の中で、交流相手校はケニアやトルコにも広がったものの、これらの国々からの参加者もそれぞれ年間1~3名程度にとどまっている。一方、中国及び韓国では交流相手校の増加がみられ、さらに台湾のいくつかの大学と交流協定が締結されたことにより、全体としては、東アジア圏からの留学生が参加者の大半を占めるプログラムとなっている。

受け入れ学生は、毎年4月頃、交流先各大学から送られてくる申請書に基づいて選考され、入学者の決定は本学の国際交流委員会の承認をもって行われる。成績を含む応募書類と、参加希望理由、教員の推薦書などを総合的に判断して選考を行っている。選考における基本方針は、NISPが国際交流をその第一目的にしている点を重視して、できるだけ多くの国から、また同一国内ではできるだけ多くの大学から参加者を受け入れるようにしている。そのため、全体の受入れ人数は20名程度として、受入れ可能な人数を越える場合は1大学につき1~3名程度に人数を限定している。また、応募書類のうち、英語を母語としない地域からの学生の英語能力については、発足当初は厳格な審査を適用していなかったが、2008年に受け入れた第5期生から、TOEFL等の英語能力証明の提出を義務付けるようにした。その理由は、プログラム発足以来、英語力が極めて弱い学生や、極端な例として日本語によるプログラムと勘違いして来日してきた学生が見られたためである。また、英語での授業運営の関係上、授業担当者等の指摘を受け、より厳格な基準を設けることになった。こうして、過去10年間に、10カ国・地域、33大学から208名の学生を受け入れた（表1参照）。

2. プログラム内容

N I S Pのカリキュラムは、英語による専門・教養科目と外国語科目としての日本語から成る。英語による科目は、毎年、各学部からそれぞれ3科目程度提供されている。他に、留学生センター（現国際教育リエゾン機構）と言語教育研究センターが英語による開講科目を数科目提供している。本学では、理系、文系両方の学部から授業科目が提供されているため、カリキュラムも理系、文系混合の内容になっている。すなわち、実施年度によって若干の違いはあるが、日本語以外に、毎年30科目程度の授業科目が提供され、理系科目と文系科目が約半数ずつを占めている。ただし、N I S Pでは、必修・選択科目の区別を設けておらず、プログラムに参加した留学生は、自分の専攻に関わらず、提供されているすべての授業科目から選択することが可能である。もちろん授業科目によっては、特に理系科目の場合など、予備知識を必要とするものもあり、専攻外の学生には履修が困難な授業もあるが、制度上は理系、文系の枠組を超えて幅広い知識に触れる機会を提供している。また、理系の学生であっても、この機会を活かして、日本の社会や文化について学ぶために文化論的な文系科目を履修する学生も多く見られる。日本語については、日本語学習歴の全く無い留学生を対象とした初級レベルから、日本語能力試験1～2級程度を保持する学生を対象とした上級レベルまでの授業が準備されている。また、十分な日本語能力を有する学生は、一般の日本語による開講科目を履修することも可能である。

留学生センターが過去3年間にN I S Pで開講した授業科目については、表2に掲載した。ここでは学部が提供している科目の内容を簡単にまとめておく。まず、教育学部は初年度から異文化理解に関する授業を提供しているが、これは外国人教員によって英語で講義されている既存の日本人学生用科目を、N I S P生に開放するかたちで提供されている。同様に経済学部も、既存の英語による開講科目である国際関係論、国際経済、国際経営の科目を使って、世界の中の日本あるいは他のアジアの国々と日本との関係について学習する機会を提供している。これらの科目を履修するひとつのメリットは、日本人学生と留学生との授業を通じた交流が促進されるということにある。医歯薬学系の科目としては、「環境と健康」「感染と免疫」「細胞培養の方法」「日本における歯科学」「子どもの歯科」「生命科学入門」「医薬科学入門」「創薬化学入門」などが開講されている。環境科学部からは「環境人類

学」「地質学」などの科目、また工学部からは「材料工学」「機械工学」「土木工学」関係の科目が提供されている。さらに、水産学部は「水産科学」の入門と演習に加えて、「臨海実習」を目的とした乗船実習の機会をN I S P 生に提供している。

以上の授業科目に加えて、言語教育研究センターのネイティブの英語教員が英語によるプレゼンテーションスキル向上のための授業を1学期に1科目ずつ提供している。さらに、各自が関心のあるテーマについて、より専門的に研究したいN I S P 生のために、自主研究 (Independent Research) が設けられている。その中で、学生自身が提案した研究テーマについて、受け入れ学部の指導教員のもとで、各自がレポート等の課題を提出することになっている。

また、留学生センターの専任教員1名がプログラム全体のとりまとめを行うコーディネーターとして機能している。授業科目の履修に関わるオリエンテーションや手続き等の業務を軸としながら、授業も担当している。加えて、参加者の学業及び日常生活全般に関する相談役として直接対応している。

3. N I S P の問題点と将来的課題

N I S P のカリキュラムは、多様な留学生の関心やニーズに応えるために、全学から提供された様々な授業科目によって構成されている。これに対して、参加した留学生の反応は複雑である。授業の難易度については、ある学生が易しいと感じる授業も、別の学生にとっては難しい場合がある。あるいは授業内容についても、概して、自分の専攻に一致した授業が見つからない、或いは選択できる授業科目が少ないといった不満を持つ参加者が若干いることも事実である。日本語科目以外に年間平均30科目程度の授業が準備されているにもかかわらず、こうした感想は毎年聞かれる。その一方で、授業を提供する側、すなわち担当教員からは、これだけ多様な学生が同じ教室に集まると、どのようなレベルや内容で授業を準備したらよいかかわからないといった意見や、逆に、せっかく準備しても履修者がわずか1~2名しかいない、といった意見もあった。本プログラムが網羅型のプログラムであることと、参加者のバックグラウンドが毎年変動する現状から、参加者の希望する授業と本学が提供できる授業との間に、ある程度のミスマッチが生じることは止むを得ないと思われる。しかし、これまでの経験を踏まえて、カリキュラ

ムの核となるような科目をより多く定着させる努力とともに、新たなニーズに応えるような新しい科目開講も視野に入れて、本学の豊かな教育資源を生かす形で、カリキュラム内容のいっそうの充実を図っていくことが求められている。

第二に、日本人学生と接する機会や合同で授業を受ける機会が限られている点を短所として指摘する学生がいる。英語によるプログラムとはいえ、留学の本来のあり方から言えば、留学先の学生と一緒に机を並べて勉強したいという希望は理解できる。教育学部や経済学部が提供している科目は、日本人学生のために外国人教員によって英語で講義されているため、日本語学習歴の無い留学生でも日本人学生と一緒に受講することができる。ただし専攻外の学生にとって、これらの科目は履修の選択肢とはならず、現在のところ、参加者全員の要望に応える共修科目とはなっていない。今後、英語を媒介にして留学生と日本人学生が共に学べる機会がさらに増えることが望まれる。

第三に、発足時より懸念されていた問題として、参加国の偏りと参加者の英語運用能力の差の問題が挙げられる。極端な例として、自分と同じ出身国からの学生とだけ受講する場合もあり、留学の雰囲気がないという不満が学生から出された。こうした状況が生じる原因には、本学の交流協定校の偏りがその根底にあることは否めず、今後、協定校の多様化が待ち望まれる。

以上のような課題が残る一方、N I S Pへの参加をきっかけとして、本学の大学院生や研究生として再来日するリピーターも数名出ている。さらに学外の活動でも、フィリピンからの参加者が、2007年度朝日新聞社主催の英語論文コンテストにおいて優秀賞を受賞した。また、2009年には、ケニアからの留学生が韓国で開かれたWorld Civic Youth Forumに招待され、採択された論文を発表した。こうした成果は、N I S P生が積極的に本学での留学生活を送った結果として高く評価されるにちがいない。

参考文献

- 松村真樹（2005）「長崎大学短期留学プログラムの開始と今後の課題」
『長崎大学留学生センター紀要』第13号 pp.29-40
- 松村真樹（2008）「第4期に入った長崎大学短期留学プログラム」
『長崎大学留学生センター紀要』第16号 pp.79-95
- 松村真樹（2011）「長崎大学短期留学プログラムの7年目を迎えて」
『長崎大学留学生センター紀要』第19号 pp.1-13

（留学生センター准教授）

表1 短期留学プログラム生受入れ実績 平成16年度～25年度

実施年度	大学所在国 (地域)	大学名	学生数	学部別内訳							
				教	経	医	歯	薬	工	環	水
第1期 平成16年度 (2004年～2005年)	中国	福州大学	2	1						1	
		复旦大学	2					2			
		同済大学	1						1		
		大連水産学院	1								1
	韓国	麗水大学	2	1						1	
		慶北大学	1		1						2
		釜慶大学	2								
		済州大学	1							1	
	タイ	マヒドン大学	1	1							
	マレーシア	マレーシア科学大学	1	1							
小計			14	4	1	0	0	2	1	3	3
第2期 平成17年度 (2005年～2006年)	中国	福州大学	2							2	
		复旦大学	1					1			
		同済大学	2			2					
	台湾	淡江大学	3							3	
	韓国	麗水大学	5	4					1		
		済州大学	1	1							
		延世大学	2		1	1					
	タイ	マヒドン大学	1								1
	マレーシア	マレーシア科学大学	2						1		1
	フィリピン	フィリピン大学	1						1		
小計			20	5	1	3	0	1	3	5	2
第3期 平成18年度 (2006年～2007年)	中国	福州大学	1							1	
		复旦大学	1					1			
		同済大学	1						1		
	台湾	高雄海洋科技大学	2								2
	韓国	慶北大学	1	1							
		釜慶大学	3	2	1						
		済州大学	1							1	
		延世大学	1						1		
		全南大学	4	2						2	
	タイ	チェンマイ大学	1		1						
	マレーシア	マレーシア科学大学	2			2					
	フィリピン	フィリピン大学	1	1							
	インドネシア	サムラトランギ大学	1		1						
	トルコ	黒海工科大学	1								1
	ケニア	ケニヤッタ大学	1	1							
小計			22	7	3	2	0	1	2	4	3

10年目を迎えた長崎大学短期留学プログラム

表1 短期留学プログラム生受入れ実績 平成16年度～25年度（つづき）

実施年度	大学所在国 (地域)	大学名	学生数	学部別内訳						
				数	経	医	歯	薬	工	環 水
第4期 平成19年度 (2007年～2008年)	中国	福州大学	2							2
		复旦大学	2					2		
		同济大学	1			1				
	台湾	陽明大学	1							1
		高雄海洋科技大学	2		1					1
	韓国	慶北大学	1							1
		釜慶大学	3	1	1				1	
		漢陽大学	2	1					1	
	タイ	マヒドン大学	1			1				
		チェンマイ大学	1		1					
	マレーシア	マレーシア科学大学	1							1
	フィリピン	フィリピン大学	1	1						
	トルコ	黒海工科大学	1							1
	ケニア	ケニヤッタ大学	3	1		1				1
小計			22	4	3	3	0	2	2	6
第5期 平成20年度 (2008年～2009年)	中国	福州大学	2							2
		复旦大学	2					2		
		同济大学	3						1	2
	台湾	高雄海洋科技大学	3		3					
		台湾海洋大学	1							1
	韓国	慶北大学	1	1						
		全南大学	2	1				1		
		漢陽大学	1		1					
	タイ	マヒドン大学	1							1
		チェンマイ大学	1		1					
	トルコ	黒海工科大学	1							1
	ケニア	ケニヤッタ大学	2	1		1				
小計			20	3	5	1	0	3	1	5
第6期 平成21年度 (2009年～2010年)	中国	福州大学	2							2
		复旦大学	1					1		
		集美大学	2							2
	台湾	高雄海洋科技大学	5		5					
	韓国	慶北大学	2		2					
		釜慶大学	1						1	
		漢陽大学	2	1	1					
		全南大学	3						1	2
	タイ	チェンマイ大学	1		1					
	ケニア	ケニヤッタ大学	3			3				
小計			22	1	9	3	0	1	2	4

表1 短期留学プログラム生受入れ実績 平成16年度～25年度（つづき）

実施年度	大学所在国 (地域)	大学名	学生数	学部別内訳							
				教	経	医	歯	薬	工	環	水
第7期 平成22年度 (2010年～2011年)	中国	福州大学	2							2	
		復旦大学	2					2			
		集美大学	2								2
		中国薬科大学	3	1				2			
	台湾	高雄海洋科技大学	3		3						
		台湾海洋大学	2						2		
	韓国	梨花女子大学	1							1	
		漢陽大学	2	1	1						
	タイ	マヒドン大学	1					1			
		チェンマイ大学	1		1						
	フィリピン	フィリピン大学	1	1							
	ケニア	ケニヤッタ大学	2	1						1	
小計			22	4	5	0	0	5	2	4	2
第8期 平成23年度 (2011年～2012年)	中国	福州大学	2							2	
		復旦大学	1					1			
		集美大学	2								2
		中国薬科大学	4	1	1			2			
	台湾	高雄海洋科技大学	2		1						1
		国立政治大学	1		1						
	韓国	全南大学	3		1					2	
		慶北大学	1		1						
	タイ	チュラロンコン大学	2	2							
		チェンマイ大学	1		1						
	フィリピン	フィリピン大学	1	1							
	ケニア	ケニヤッタ大学	2					1		1	
小計			22	4	6	0	0	4	0	5	3
第9期 平成24年度 (2012年～2013年)	中国	福州大学	3							2	1
		復旦大学	2					2			
		集美大学	2								2
		中国薬科大学	2	1				1			
		山東大学	1							1	
		同済大学	1							1	
	台湾	高雄海洋科技大学	2						1		1
		国立台湾大学	1	1							
		国立政治大学	1		1						
	韓国	慶北大学	1						1		
	タイ	マヒドン大学	1	1							
		チェンマイ大学	1		1						
		チュラロンコン大学	1		1						
	フィリピン	フィリピン大学	1	1							
	ケニア	ケニヤッタ大学	1							1	
小計			21	4	3	0	0	3	2	5	4

10年目を迎えた長崎大学短期留学プログラム

表1 短期留学プログラム生受入れ実績 平成16年度～25年度（つづき）

実施年度	大学所在国 (地域)	大学名	学生数	学部別内訳							
				教	経	医	歯	薬	工	環	水
第10期 平成25年度 (2013年～2014年)	中国	福州大学	2	2							
		复旦大学	2					2			
		集美大学	1								1
		中国薬科大学	2					2			
		山東大学	1	1							
		同済大学	2	1	1						
		中国海洋大学	1	1							
	台湾	国立高雄海洋科技大学	2		2						
		国立台湾海洋大学	1								1
		国立政治大学	1	1							
		国立台湾師範大学	1		1						
	韓国	釜慶大学	1								1
	タイ	チェンマイ大学	1		1						
		チュラロンコン大学	1	1							
	フィリピン	フィリピン大学	1		1						
	ベトナム	カントー大学	1								1
	ケニア	モイ大学	2		2						
小計			23	7	8	0	0	4	0	0	4
総計			208	43	44	12	0	26	15	41	27

表2 留学生センター提供短期留学プログラム授業科目

授 業 科 目 名	履 修 者 数					
	2011 春	2011 秋	2012 春	2012 秋	2013 春	2013 秋
日本語 1	-	9	-	8	-	9
日本語 2	9	5	9	4	7	5
日本語 3 読解	5	2	5	3	4	2
日本語 3 聴解	5	2	5	3	2	2
日本語 3 作文	5	2	5	0	4	2
日本語 4 読解	5	1	2	0	3	2
日本語 4 聴解	3	1	1	0	3	2
日本語 4 作文	0	1	1	0	2	3
日本語 5 A	-	4	-	5	-	3
日本語 5 B	-	5	-	4	-	2
日本語 5 C	3	-	3	-	5	-
日本語 5 D	3	-	5	-	5	-
日本語学Ⅰ（日本語学入門）	-	16	-	11	-	14
日本語学Ⅱ（日本語の構造）	9	-	16	-	7	-
日本社会の社会学	3	-	8	-	5	-
長崎で平和を考える	-	14	-	5	-	18
日本の文化・経済・社会	7	-	9	-	7	-
華道	-	12	-	12	-	12
茶道	10	-	10	-	10	-
人口学入門	-	5	-	4	-	3
統計学	-	4	-	4	-	8
社会調査法	2	-	3	-	3	-
日本のアニメ	14	-	16	-	12	-

注. ハイフン（-）は当該学期不開講